

「つながる中区、その先を考える」

訪問看護のあんなこと、こんなこと

アンケートまとめ

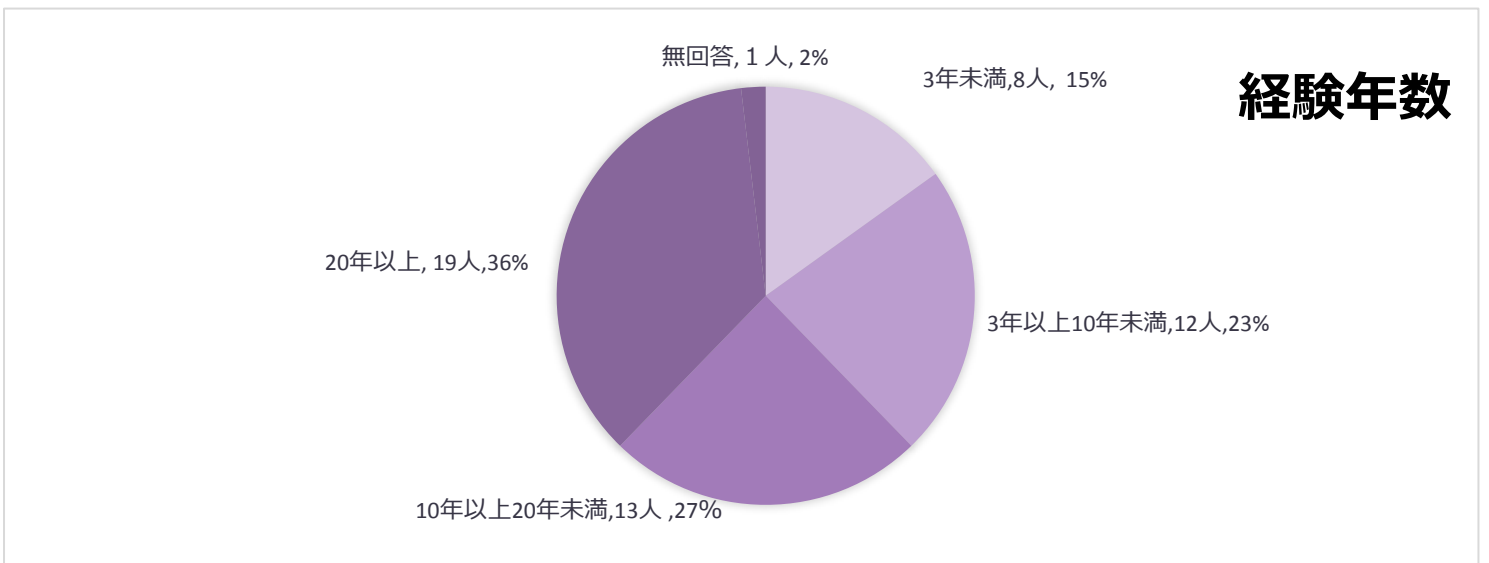
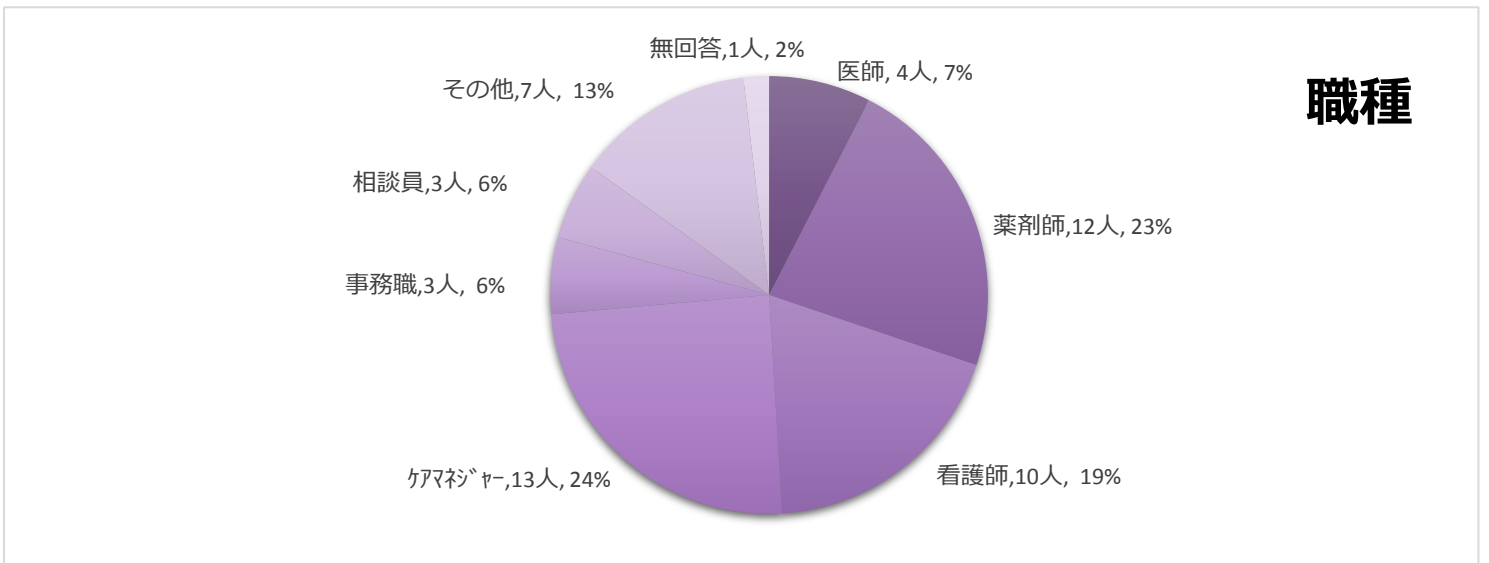
(令和年7月6日開催)

開催日時：令和元年7月6日（土）15：00～17：00

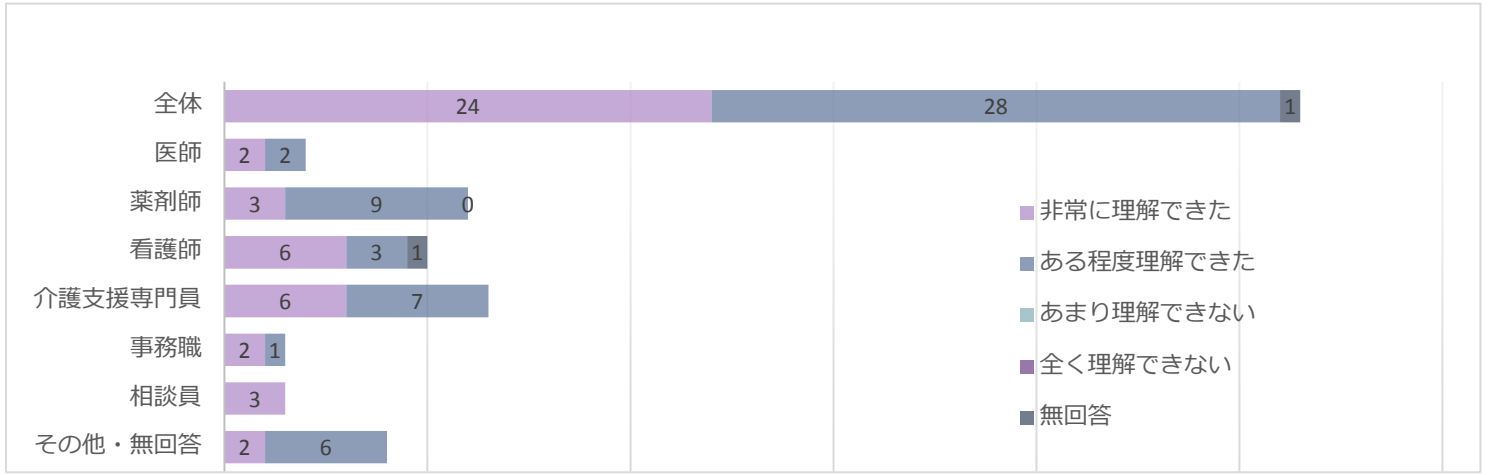
開催場所：名城病院 地下1階大会議室

研修参加者数：87名

アンケート回答者数：53名（回答率61%）



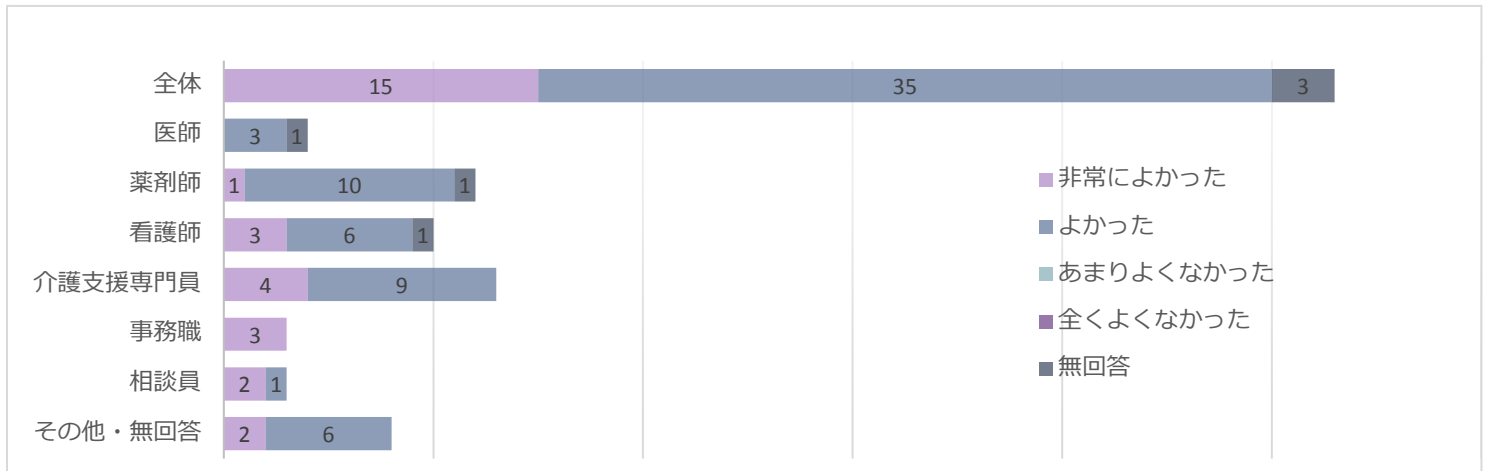
## □第1部 訪問看護のあんなこと、こんなことについて



### 理由（一部抜粋）

- ・訪問看護の制度について知ることができた
- ・多職種の方の話を聞ける機会がなかなかないのでよかった
- ・知らないこともたくさんあったので勉強になった

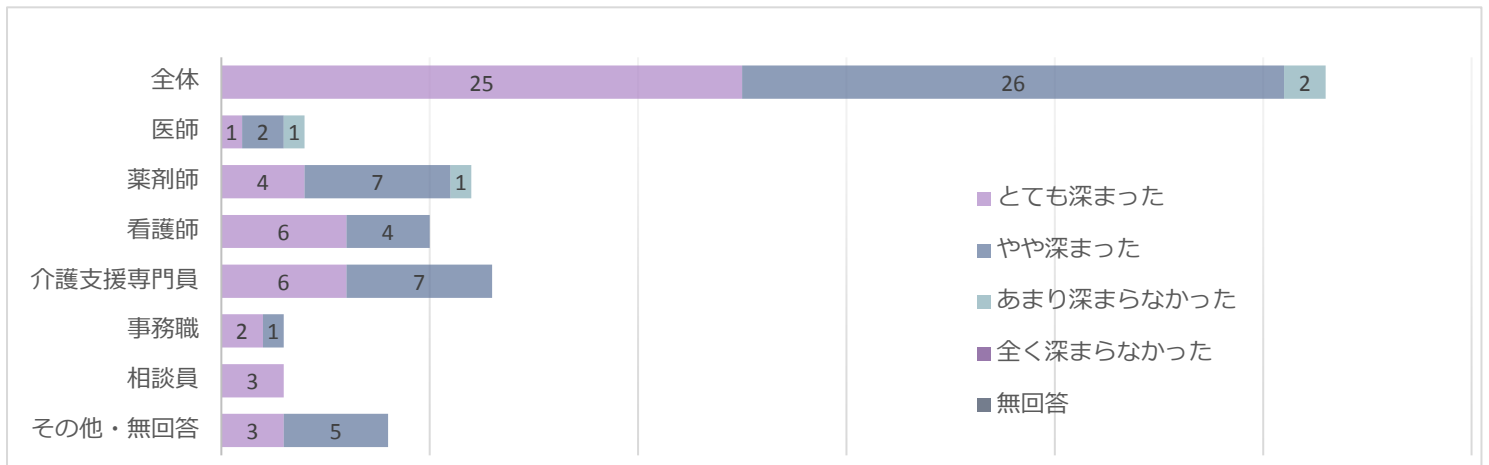
## □第2部 各訪問看護ステーション事業所紹介と質疑応答について



### 理由（一部抜粋）

- ・各事業所の特色がわかった
- ・各々の特徴について良く知ることができた

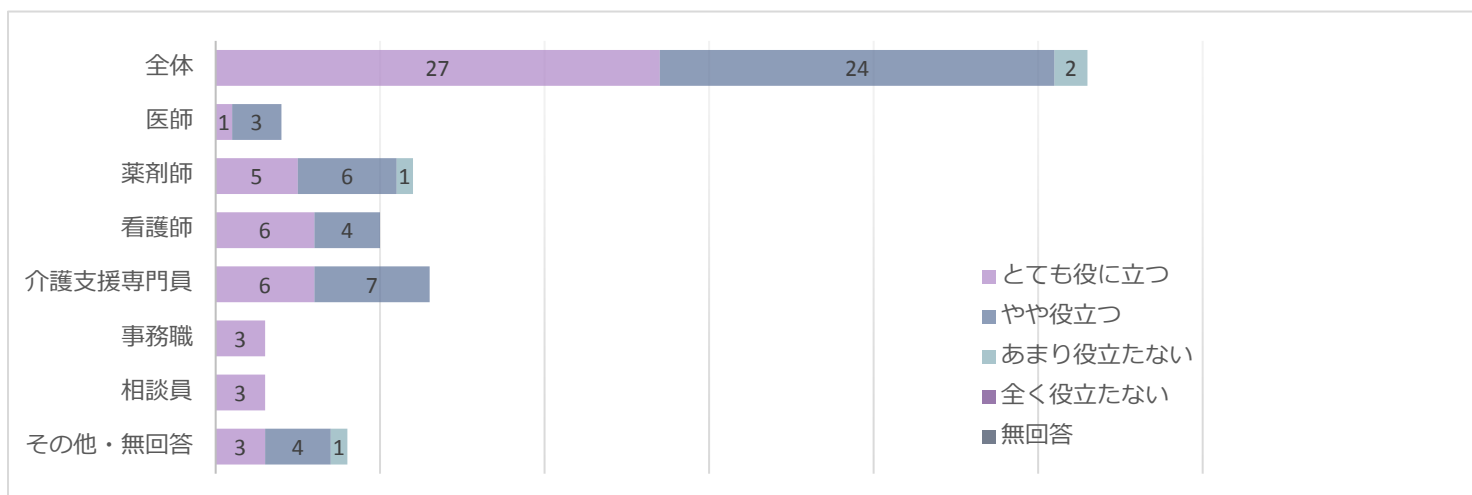
## □訪問看護についての認識



## 理由（一部抜粋）

- ・介護保険・医療保険下で利用する場合の訪看の違いが良く分かった
- ・保険の優先順位やサービスの提供時間・単位についても知ることができ、勉強になりました
- ・具体的な困難事例をいくつか知ることができた
- ・訪問看護の活動の実際を知ることができた

## □ 今後の業務に役立つと感じましたか？



## 理由（一部抜粋）

- ・薬剤師の出番が良くわからなかった。服薬管理まで看護師がやっていて、仕事の幅の広さに驚いた
- ・病院での退院支援に活用できる
- ・各ステーションについて知ることが出来たこと
- ・訪問看護ステーションの一覧表が頂けたので、対象の方の相談を今後させて頂きたい
- ・各事業所の機能が知れて良かった 現場のリアルな声が聞けました

## □ 多職種連携についてどのような課題があると思いますか

- ・病院間・退院後の連携が円滑に行えないことがあること
- ・「在宅での独居・認知症ケースのフォローをどうしていくのか？」事例検討してはどうか？
- ・在宅業務に取り組みたいがなかなかきっかけがつかめません
- ・連携の取れている職種とそうでない職種で差が大きい
- ・各職種の連携において、薬剤師はまだまだお役に立てていないことが多いと思われた
- ・多職種の交流の場を増やしていいと良い
- ・急性期病院の退院時の連携
- ・スムーズに在宅療養ができるための連携・共同が必要
- ・利用者の生活を考えたプランや薬剤管理は重要だと考える
- ・多職種連携はどの職種の方が中心となって連携を図るのか、まだイメージがわからない

- ・お互い受けてきた教育や視点が違うときがあるため、利用者様にとってより良い方法をすり合わせる大切だと思います
- ・多職種のためのメーリングリストがあるといいですね。(情報共有のため)
- ・病院のスタッフ(看護師やリハビリ)が在宅機関の機能や働きを十分に理解せず、患者に話を進めることが多い
- ・いろいろな職種の人が集まれる場所があればいいと思います

## □ ご意見

- ・薬剤師が他の医療従業者とは格段に在宅への介入に遅れていることを強く感じた、薬剤師も貢献したいです
- ・小さな会で話し合いができればと思います
- ・独居の高齢者については、看護・介護だけでなく自治体と一緒に、食事のことも含めた支援や体制が必要なのでは？
- ・こういう研修会ではグループミーティングを活用したほうがいいのでは？(参加したいという思いが強くなる)
- ・今回のように自由席にして欲しい
- ・開催日は10日過ぎにして欲しい(請求業務があるため)

**～研修会へのご参加、アンケート回答ありがとうございました～**

ご意見、ご要望を参考に可能な限り今後の研修会に活かしていきたいと考えます。

**中区はち丸在宅支援センター**